

2017 年 11 月 17 日

株式会社カラダノート

代表取締役 佐藤 竜也

**“家族の日を考える働き方改革！****妊娠～出産を経て女性の働き方への意識はどのように変わったか****働くママの約 9 割が求める子育てしやすい働き方の条件とは？”**

---

11 月第 3 日曜日は「家族の日」、その前後各 1 週間を「家族の週間」とすることが、平成 19 年内閣府によって定められました。内閣府は、子供を家族が育み、家族を地域社会が支えることの大切さについて理解を深めてもらうために、この期間を中心として子育ての理解促進を図っています。

子どもが小さいうちは育児と家事で精一杯。仕事に復帰した女性はもちろん、子育てが落ち着いたら仕事をしたいと思っている女性にとってどのように働くことが理想なのか、家族の日をきっかけにアンケート調査を行いました。

---

株式会社カラダノート（本社：東京都港区、代表取締役：佐藤竜也）は、「家族の健康を支え 笑顔をふやす」をビジョンに掲げ、主に妊娠中から育児中の女性を対象とした「カラダノートシリーズ」を提供しております。

今回は家族の日をきっかけとして、全国の妊娠中・育児中の女性 5,050 人を対象に、子育てをしながら働くことについてアンケート調査を実施しました。（調査期間：2017 年 11 月 7 日～11 月 12 日）

**【背景】**

安倍内閣は 2016 年 9 月に働き方改革の取り組みを提唱し、背景にある深刻な労働力不足を補うために出生率を上げて労働力を増やすこと、また労働市場に参加していない女性や高齢者の働き手を増やすことを掲げています。

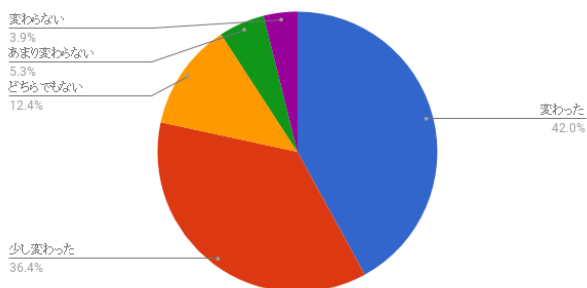
子育てをしている女性にとっては、働くための環境がそろっているかどうか、子育てしながら仕事をしていく上で重要な要素です。待機児童問題はさることながら、職場の理解や勤務条件の希望が合致しないことには仕事を諦めるということにもなりかねません。そこで、働くママが求める子育てしやすい働き方の条件を調査いたしました。

## ●妊娠～出産を機に家族観が変わったと回答した人は7割以上

家族観が変わった理由としては、「子どものことを優先に考えるようになった（84.1%）」  
「親の気持ちがわかるようになった（66.8%）」「責任感が出た（64%）」と  
自分に向いていたベクトルがまずは子どもに向くようになったことが顕著にあらわれています。

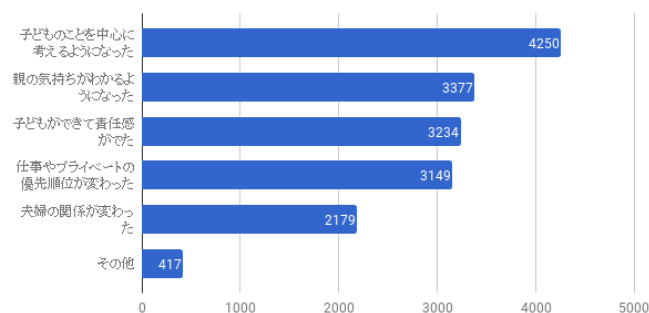
子どもができて家族観は変わりましたか？

対象：5,050人（仕事をしている人：2,630名／専業主婦：2,400名）



どんなところが変わったと思いますか

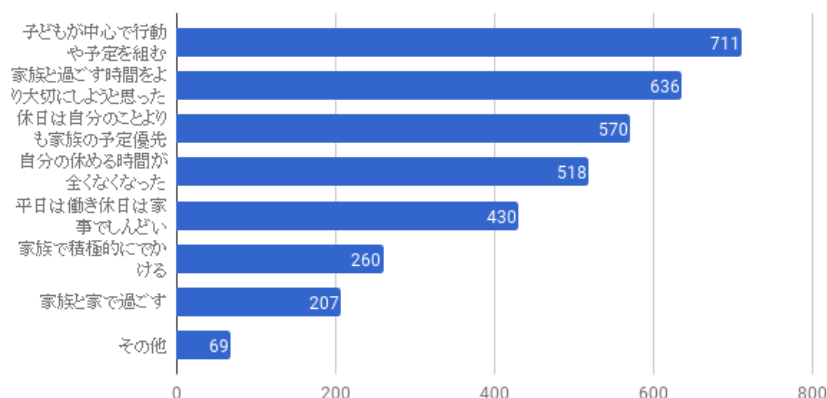
対象：5,050人（仕事をしている人：2,630名／専業主婦：2,400名）



さらに、仕事に復帰後、家族との過ごし方はどのように変化したのか調査したところ、  
「子ども中心で家族の予定が決まる様になった（54.2%）」  
「家族の時間を大切にしようと思った（48.5%）」と、約半数の人が子どもや家族のことを優先したいと思  
っているものの、「自分の休みが取れない（39.5%）」「平日は働き休日は家事に追われてしんどく思うようにな  
った（32.8%）」という声もあがりました。

仕事復帰後、家族との過ごし方はどう変わりましたか

回答数：1603（対象：仕事をしているママ2,630名）



子育てしながら仕事をするためには、職場の理解やパートナーの協力なども必要ですが、  
“ワンオペ育児”という言葉が流行語大賞にノミネートされてしまうように、家事も育児も仕事となると、ママを取り巻く環境はまだまだ厳しいものがあるそうです。

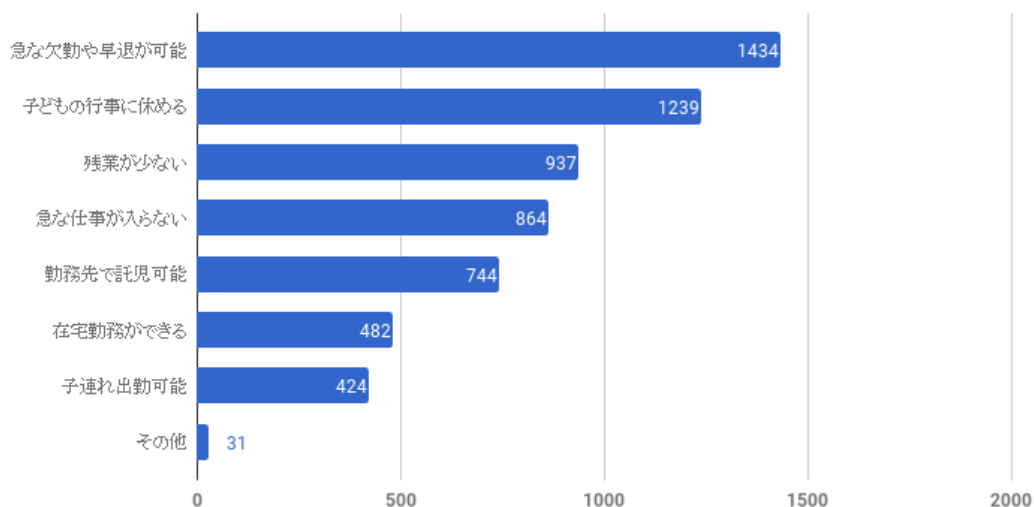
## ●働くママが求める子育てしやすい働き方の条件

断トツの1位は「子どもの急な体調不良でも早退、遅刻、欠勤がしやすい」

働くママが子育てするのに理想的な働き方の条件として挙げた項目のうち、断トツの1位は「子どもの急な体調不良でも早退、遅刻、欠勤がしやすい（89.3%）」。  
次いで、「子どもの行事には休みが取れる（77.2%）」「残業が少ない（58.4%）」でした。

### どんな働き方が理想ですか？

回答数：1603（対象：働くママ2,630名）



やはり子育てをするママにとって重要なのは、子どもの体調や都合を第一に考えて柔軟に対応ができるような環境であることが一番のようです。

次いで、「勤務先での保育」子や「子連れで出社できること」を理想の条件として挙げる人が多かったのは、保育園の待機児童問題で子どもの預け先に悩むママが多いことも影響していそうです。

### 【まとめ】

子どもが産まれることで家族観や、物事の優先順位が大きく変化したという回答が大多数を占めました。

特に働く女性は、仕事、家事、育児をこなすことが求められ、頼る相手がいない場合やパートナーとの家事育児の分担具合によっては負担が大きくならざるを得ません。

働き方改革を推し進めるためには、子育てしながら働きやすい条件を、社会や企業が積極的に取り入れていかなければなりません。

“家族の健康を支え、笑顔をふやす”をビジョンに掲げる当社では、引き続きママのワンオペ育児率や働くママとパートナーとの関係、保育料など、家族の現状に関する調査を行ってまいります。

■カラダノートママ部「家族の日に関する調査」

調査方法：インターネット調査

調査期間：2017年11月7日-11月12日

情報公開日：2017年11月17日

対象者：カラダノートママ部メルマガ登録ユーザー5,050名（内訳：仕事をしている2,630人、専業主婦2,400人）

詳細情報はカラダノート家族総研にて紹介しております。

■サイト名：カラダノート家族総研

URL：<http://karadanote.jp/souken/>

■株式会社カラダノート＜<http://corp.karadanote.jp/>>

株式会社カラダノートは、「家族の健康を支え笑顔をふやす」をビジョンに掲げ、主に妊娠中から育児中の女性を対象とした「カラダノートシリーズ」を提供しています。今後も妊娠中から育児中の女性をサポートするサービスの提供に努めてまいります。

■本件に関するお問い合わせ

株式会社カラダノート 広報

【住所】〒105-0011 東京都港区芝公園2丁目11-11 芝公園2丁目ビル3階

【WEB】<http://corp.karadanote.jp/>

【電話】03-4431-3770